

質問77

羅臼町の歴史について調べていますが、次の記述について教えてください。

- ・明治2年羅臼町の人口は25名ほどであった。
場所請負制度が廃止され、個人による漁場の開拓などが始まった。
そこで、漁法が変わってから、底魚が獲れるようになり、羅臼町の人口が増えた。

ここでいう漁法とは、どんなものでしょうか？

漁法が変わった背景は何でしょうか？文明開化（西欧の漁法の流入）でしょうか？

地元の人が開発したものでしょうか？日本の他地域の漁法が流入したものでしょうか？

（一般）

答え

ここでいう漁法とは、サケ・マス・ニシン・コンブといった沿岸域より沖合で行われる、タラヤオヒョウ(カレイ)を対象とした延縄漁業（釣り針をたくさん垂らす漁法。当時は「雑魚漁」と言われていたようです）と考えられます。

次に漁法が変わった背景の最大の要因は、耐波性能の高い漁船の導入（川崎船の導入、船型の大型化、西洋型の帆の使用、補助機関の採用）と考えられます。

は本州からもたらされたと言われていています（当時は北海道より本州の方が沖合漁業が進んでいました）。

、 に関しては、西洋技術の導入が背景にあると考えていいと思います。